

横浜市消防団訓練事例集



令和元年 11 月

横浜市消防団の訓練に関する取組事例

	消防団名	訓練事例概要	項
①	鶴見消防団	・ 漕艇技術訓練・津波避難誘導訓練	1
		・ 消防隊との連携訓練	2
		・ 女性消防団員応急手当訓練	3
②	神奈川消防団	・ 消防隊と連携した火災対応訓練	4
③	西消防団	・ 水難救助訓練	5
		・ 車両救出訓練	6
		・ 女性団員の震災対策訓練	6
④	伊勢佐木消防団	・ イセザキモール防災指導訓練	7
⑤	加賀町消防団	・ 大規模災害発生想定訓練	8
⑥	山手消防団	・ 「参加しやすさ」を意識した訓練	9
⑦	南消防団	・ 南消防団夏季訓練会	10
		・ 震災対策訓練	11
⑧	港南消防団	・ 大規模災害対応訓練	12
		・ 女性消防団員スキルアップ研修	13
⑨	保土ヶ谷消防団	・ 消火実践訓練会	14
		・ 保土ヶ谷消防団・西消防団合同震災対応訓練会	15
⑩	旭消防団	・ 小型ポンプ操法訓練・消火活動及び基礎的諸能力訓練	16
		・ 女性消防団員による着衣泳訓練	17
		・ 大口径ホース遠距離放水訓練	17
⑪	磯子消防団	・ 各分団と連携した遠距離放水訓練	18
		・ 地震火災対策訓練（高所見張り等）	19
⑫	金沢消防団①	・ 消防隊と連携し100mmホースの効率的な延長訓練	20
		・ 大型簡易水槽の設置要領及び取扱い要領訓練	20
		・ 大型簡易水槽からの小型ポンプによる取水、多口放水訓練	20
		・ 民間ミキサー車からの補水訓練	20
	金沢消防団②	・ 高低差のある丘陵部でのホース延長訓練	21
		・ 自然水利（称名寺の池）からの取水訓練	21
		・ 小型ポンプによる中継活動要領確認	21
		・ 頂上（八角堂）付近での有効放水確認	21

⑬	港北消防団	・女性消防団員を対象とした救助資機材取扱訓練	22
		・ポンプメーカーによる可搬式小型ポンプ講習	23
		・応急手当指導員スキルアップ研修	23
		・大口径ホースによる遠距離送水訓練	24
		・隣接都市消防団との合同研修	24
		・消防署消防団地区本部運営訓練	25
		・風水害対策等実働訓練	25
		・署団連携訓練	26
⑭	緑消防団	・新入消防団員研修	27
⑮	青葉消防団	・画像等を活用した無線交信訓練	28
		・夏休み等を利用した研修	29
		・昼休みを利用した訓練	30
⑯	都筑消防団	・震災対応総合訓練	31
		・飛行場外離着陸場訓練	32
⑰	戸塚消防団	・コンセプト	33
		・火災対応訓練（STEP1～STEP3）	34
		・女性団員研修	35
		・訓練指導者研修	36
⑱	栄消防団	・大規模災害対応訓練	37
		・車両運行訓練	38
		・水害対策訓練	39
		・車両事故救助訓練	40
		・署団連携遠距離中継訓練	40
⑲	泉消防団	・訓練に参加しづらい団員のためのフォローアップ訓練	41
⑳	瀬谷消防団	・火災対応総合訓練	42
		・女性消防団員による訓練	43

鶴見消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

鶴見消防団では、今後予測される災害に迅速・的確に対応できるよう、水防訓練、消防隊との連携訓練、女性団員に特化した訓練など多岐に亘る訓練を実施していますが、課題として、こうした訓練を実施する場所を確保することが非常に難しくなっている現状があります。

また、本業が多忙なことや市外に居住している理由により、熱意はあっても訓練に参加することができない団員もいます。

こうした課題の解決に向け、団本部をはじめとする全ての団員が、「効果的かつ参加しやすい訓練の実施」について日々検討しています。

2 訓練内容

(1) 漕艇技術訓練・津波避難誘導訓練

区内に鶴見川を有していることから、水害への対応力を向上するため、小学校にご協力いただき、ボートの組立てや漕艇等の訓練を実施しています。

また、津波の発生も想定されることから、ビルの屋上を避難場所に見立て、地域住民の避難誘導の訓練も実施しています。



漕艇技術訓練の様子



津波避難誘導訓練の様子

(2) 消防隊との連携訓練

鶴見消防署警防課職員にご協力をいただき、指揮本部の設置、ホース延長、放水活動など火災発生時と同じ内容の訓練を定期的に行っています。

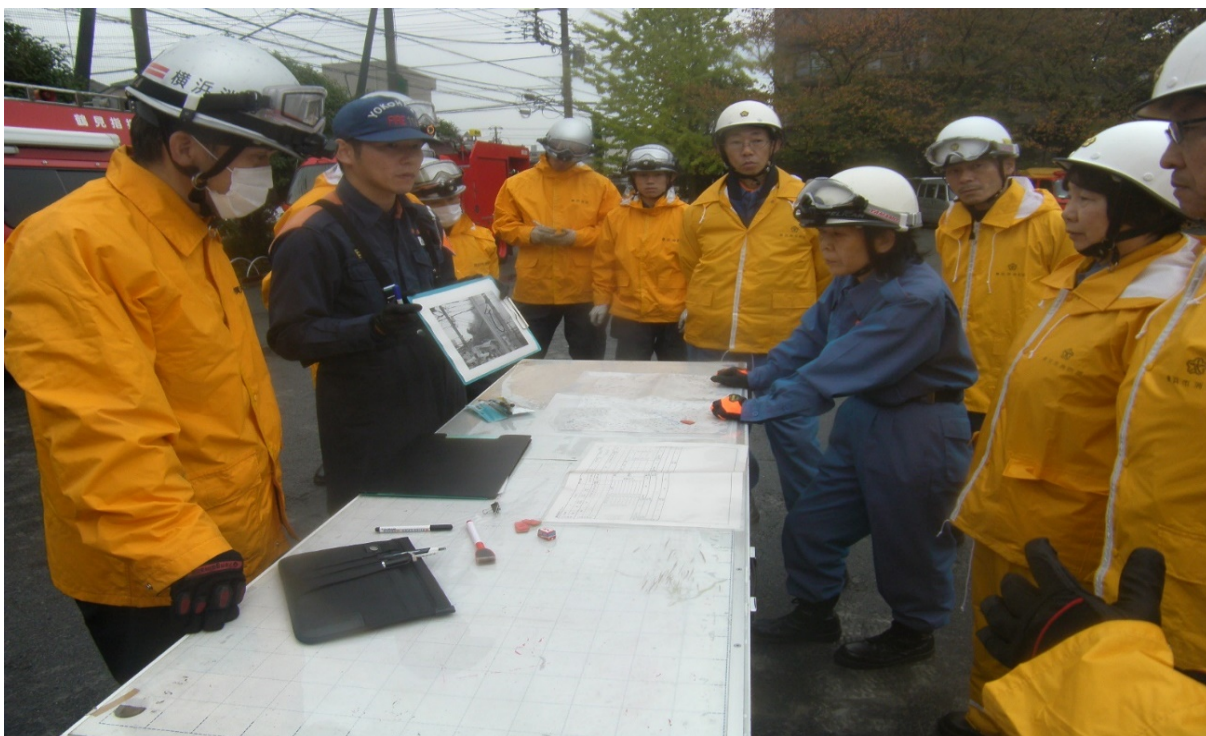
また、この訓練を通じて、団員と警防課職員との顔の見える関係を構築し、実災害での円滑な連携活動が出来るよう取り組んでいます。



消防隊との連携訓練の様子①



消防隊との連携訓練の様子②



消防隊との連携訓練の様子③

(3) 女性消防団員応急手当訓練

女性消防団員を中心として、応急手当等の訓練を定期的に行っています。

こうした防災指導は、地域住民に対しても多くの場面で実施することがあるため、様々な負傷部位を想定し、確実に技術を身に付けることができるよう熱心に訓練しています。



女性団員応急手当訓練の様子

神奈川県消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

神奈川県消防団では、「災害時に効果的な活動を展開するため、どのように団員の技術向上に取り組んでいくか」という点を課題としています。このことから、消防隊と連携した訓練を定期に実施することで、実際の災害活動に根付いた技術の習熟を図るとともに、団員と職員の顔の見える関係を構築し、連携を強化することに努めています。

2 訓練内容

消防隊と連携した火災対応訓練

各分団代表チームが、管轄区域の受持ち消防隊と連携し火災対応訓練を実施しました。

なお、この訓練は、下記想定のもとに危険回避行動や延焼拡大防止への配慮、部隊連携等を審査し、優秀な部隊については表彰を行いました。

【訓練想定】

- ・木造密集地域・建物火災（火災は炎上、延焼拡大中）
- ・延焼建物（木造2／0）2階に要救助者1名
- ・消防団最先着（現着、部署位置から見て黒煙上昇中）



要救助者救出の様子



消防団から消防隊への情報伝達の様子

西消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

西消防団では、過去に発生した災害に基づき、団員の意見・要望を積極的に採用した実災害を意識した訓練を実施しています。

また、区の特性である低地と河川に対応するため、水難事故、繁華街・幹線道路事故を想定した救助訓練などを実施していますが、都市部においては消防団の認知度が低く、次の担い手の確保と技術の伝承をどのように行っていくかが課題となっています。

また、勤務地団員の割合が増加する中、日中に男性団員が不在であることが予想されることから、女性団員の更なる技術向上を図るため、工夫して訓練を計画する必要があります。

2 訓練内容

(1) 水難救助訓練

大規模風水害発生時に、救助救出活動を迅速かつ確実に実施するため、ロープ結索・救助確保要領、救命ボート漕艇要領、救命ボート人員搬送要領、救命胴衣着衣体験を実施しています。

また、同様の訓練を区内河川において定期的に行っているとともに、都市整備局主催の河川訓練にも水難救助隊として参加しています。



浮環投下の様子



救命ボート漕艇・人員搬送の様子

(2) 車両救出訓練

西区は、国道1号線や繁華街を擁しており、往来車両によって交通事故も多く発生していることから、救助資機材の習熟を図るため、廃車両を利用した救出訓練を実施しています。

また、近年では、警察・消防署にも参加していただき、倒壊建物からの救出訓練も実施しており、より高度で実践的な訓練を行っています。



車両救出訓練の様子



倒壊建物救出訓練の様子

(3) 女性団員の震災対策訓練

日中の時間帯に震災が発生した場合を想定し、区内地域ケアプラザにご協力をいただいて震災対策訓練を実施しています。

実際に震災が発生すると、男性団員は本業等で手薄となることが予想されることから、女性団員のみで活動を展開することを念頭に、災害弱者に対する避難誘導等を中心に訓練を行いました。



女性団員の震災対策訓練の様子①



女性団員の震災対策訓練の様子②

伊勢佐木消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

伊勢佐木消防団では、管内に不特定多数の方が来訪する繁華街（イセザキモール等）を抱えており、地域住民と来訪者の安心・安全を確保するため、様々な訓練を実施しているところですが、区の土地柄、訓練場所の確保が難しく、また、本業の繁忙等により、訓練に参加する団員が一部に限られてしまっている状況なので、課題解決に向けた取り組みを実施しています。

2 訓練内容

イセザキモール防災指導訓練

イセザキモールにご協力をいただき、来場者に向けた防災指導訓練を実施しています。

来場者の中には、子供連れの方が多くことから、訓練の注目度と団員募集広報の効果高めるため、訓練終了後にバルーンアートを配布するなどの取り組みを実施しています。



積載車での団員募集広報の様子



AED 取扱い指導の様子

加賀町消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

加賀町消防団では、大規模災害の発生を想定した訓練など、実災害の活動に根差した訓練を実施し、能力向上に努めているところですが、区の土地柄、訓練場所の確保が難しく、また、本業の繁忙等により訓練に参加できる団員が一部に限られてしまっている状況なので、課題解決に向け、様々な取り組みを実施しています。

2 訓練内容

大規模災害発生想定訓練

大規模災害の発生を想定し、団員の動員、団本部及び分団本部の設置等の訓練を実施しています。

この訓練では、団本部及び分団本部の設置を実施するとともに、各団員が実際に自宅から定められた参集場所に動員し、活動マニュアル等に即した活動を実施するほか、団本部と各分団本部の無線交信や想定した出場指令に基づいた部隊の出場、到着後の状況報告等を行うことで、団員の実災害における活動技術を向上させることを目的としています。



団員参集の様子



部隊出場の様子

山手消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

山手消防団では、本業の繁忙等で訓練に参加できていない団員が年々増加しており、「いかに団員が訓練に参加しやすい環境を考えていくか」という点が課題となっています。

また、区の土地柄、訓練場所を確保することが非常に難しい点も課題となっており、課題解決に向けた検討を重ねています。

2 訓練内容

「参加しやすさ」を意識した訓練

本業が多忙な団員に向け、毎月日曜日のうち1～2回程度、本業やプライベートに支障のない時間帯（早朝など）に訓練、会議等を実施しています。

また、事業所団員には、勤務先の休憩時間を利用した短時間訓練を定期的にも実施しており、技術の維持・向上を目標とするとともに、団本部や分団本部が訓練に参加し、団員・事業所との顔の見える関係の構築にも取り組んでいます。



事業所団員への訓練の様子



事業所団員への訓練の様子

南消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

近年の消防団員の大幅増員に伴い、知識、技術及び経験不足による個々のスキルアップの必要性から、継続した訓練への参加と技能習得が課題となっています。

また、区外に居住する事業所団員の訓練参加も課題としてあげられるため、多様な業種・業態の団員と、経験豊富な団員とが広く訓練に参加できるような環境づくりや訓練内容を整備する必要があります。

2 訓練内容

(1) 南消防団夏季訓練会

消防団員基礎的諸能力訓練及びポンプ操法訓練等を多くの団員に実施してもらい、知識・技術を身に着けることで、有事の際に活動できるように努めるとともに、南消防団員全員が一堂に会し、顔の見える関係を構築し、消防団活動を円滑に進めることを目的に、毎年7月に「南消防団夏季訓練会」を実施しています。

訓練は、競技形式にすることにより、各分団の競争意識を高め、訓練に対する士気を向上させるとともに、実災害を想定した緊張感をもって訓練にあたることにより団員のレベルアップを図ります。



礼式訓練の様子



資機材取扱い訓練の様子

(2) 震災対策訓練

震災等大規模災害時の消防団活動の充実・強化を図るため、毎年度末に訓練センターにおいてブラインド型の実践的な訓練を実施しています。

訓練は、消火訓練、救出救護訓練と2つのカテゴリーに分かれ、ホース延長、救命活動、資機材取扱い、無線交信と年間を通しあらゆる訓練を通じて得た知識や技術を披露する集大成の場として、多様な想定を付与された団員が分団で一致団結し活動にあたります。

訓練終了後は、職員による振り返りと団員による意見交換を実施し、今後のより良い活動に繋がります。

班や年齢、職種といったあらゆる垣根を越えて1つの活動に取り組むことで、チームワークを醸成し、実災害においても円滑な活動ができることに期待します。



消火訓練の様子



救出救護訓練の様子

港南消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

港南消防団では、全団員の技術向上を目的の一つとした訓練を実施しています。しかしながら、経験の豊富な団員と入団してまだ日の浅い団員との技術差は大きく、円滑な消防団活動を妨げる一因にもなっています。

このことから、あらゆる機会を捉え、より多くの団員に対し、「いかに効果的に技術を伝承していけるか」という点が課題となっています。

2 訓練内容

(1) 大規模災害対応訓練

例年、大規模災害の発生等を想定した訓練を年間計画に基づいて実施しています。この訓練は、重要確認項目を明確に示すとともに、各想定に対する活動時間を定め、実災害に則した緊張感のあるものとなっています。

また、訓練を実施する分団と見取りの分団を指定することで、訓練内容への検証効果が上がり、各活動における精度向上が図られています。



大規模災害対応訓練の様子①



大規模災害対応訓練の様子②



大規模災害対応訓練の様子③



大規模災害対応訓練の様子④

(2) 女性消防団員スキルアップ研修

主に消防署員及び消防団員（看護師等特殊技能保持者）を講師として、女性消防団員対象の研修を隔月で実施しています。この研修を通して、災害現場での活動や防災指導、防災イベント等における技術向上を図るなど、女性消防団員の活動の場が増えてきています。

また、近年では、乳幼児を育児中の若手女性団員もこの研修に参加するようになり、女性団員どうしの交流も自然と深くなっています。



スキルアップ研修の様子①



スキルアップ研修の様子②



スキルアップ研修の様子③

保土ヶ谷消防団取組事例

1 訓練に関する課題

保土ヶ谷消防団では、ポンプ操法訓練を隔年で実施しており、操法訓練に関する動作については、比較的身に付いていますが、実災害に即した訓練についてはほとんど実施していないため、現場活動における知識、技術がほとんど定着していない現状があり、今後、各団員の個の力を高めるための訓練を企画、実施する必要があります。

2 訓練内容

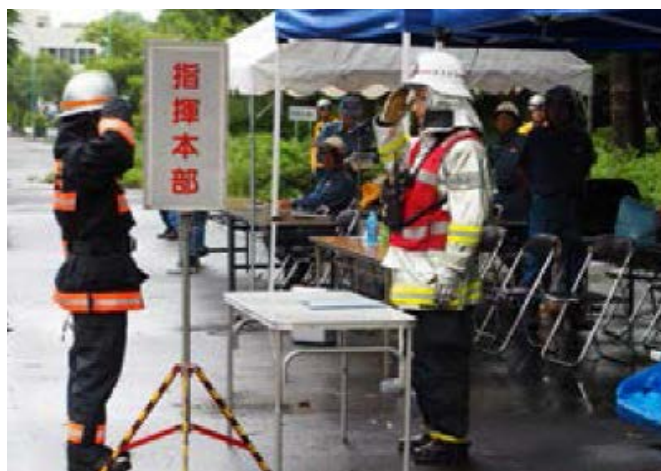
(1) 消火実践訓練会

平成 30 年度から始めた訓練で、消防団員の災害活動、訓練時における公務災害防止の知識等を習得するとともに、消火活動において適切・確実に行動ができること、そして、実災害とポンプ操法との違いを理解することを目的として実施しています。

建物火災第 2 出場を想定とし、団員が器具置場に参集した時点から、現場の確認、走行前・走行中の安全管理、そして、現着してから現場最高指揮者の下命により放水活動するまでの一連の動作を実施、検証し、訓練が効果的なものになるように努めています。



ホースライン確立の様子



現場最高指揮者からの下命の様子

(2) 保土ヶ谷消防団・西消防団合同震災対応訓練会

この訓練は、保土ヶ谷消防団及び西消防団の合同で開催しており、横浜市立帷子小学校にご協力いただき、遠距離中継送水訓練等を実施しているもので、平成30年度で9回目の開催となりました。

訓練にあたっては、横浜市消防団応援受援マニュアルをもとに、保土ヶ谷消防団及び西消防団の団本部間における情報共有や、消防団と消防署との連携を意識しつつ、各分団の活動を実災害に即した形で実施するため、ブラインド型の訓練としています。



保土ヶ谷・西消防団の情報共有の様子



放水活動の様子

旭消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

旭消防団では、本業や家事等が多忙なため、訓練に常時参加できる団員が限定されています。特に 30 代、40 代の子育て世代（約 32%）や学生等の若手・中堅団員の参加者は少ない現状です。

このことから、震災時等における消防団の組織力を活かすため、若手・中堅団員の訓練参加率を向上させるとともに、震災対策等に向けた実践的な訓練を行い、団員間の技術の差を埋め、計画的にレベルアップを図っていく必要があります。

2 訓練内容

旭消防団震災対応能力強化に向けた 3 か年計画の策定に基づき、団員のスキルアップ及び災害対応能力の向上を図っています（別紙参照）。

(1) 小型ポンプ操法訓練・消火活動及び基礎的諸能力訓練

小型ポンプ操法訓練に合わせ、消防団が保有する救助資機材の取扱い訓練指導を消防隊と連携して行い、団員個々のスキルアップ及び災害対応能力の向上を図っています。また、団員の技術の到達レベルを確認するため、消防隊長が団員個々の訓練評価を行っています。



救助資機材取扱い訓練の様子

(2) 女性消防団員による着衣泳訓練

女性団員の活動能力向上を図るため、基礎的な着衣泳訓練を実施し、女性消防団員自身が着衣泳の指導者として指導や補助ができるようになることを目的として訓練を実施しています。いざという時に自らの命を守るとともに、地域の子供たちを水害等から守れるよう、技術の向上に努めています。



ペットボトルを浮環の代用として活用



鞆を浮き袋の代用品として活用

(3) 大口径ホース遠距離放水訓練

自然水利を水源とし、大口径ホース（100 mm）を活用した遠距離放水訓練を実施しています。

相模トラフ沿いを震源とする震度7の地震により、区内に大規模な火災が発生、地震被害により消火栓が使用できない状況を想定し、公設消防隊と消防団の連携による消火態勢の確立等を訓練し、大規模災害発生時の災害対応能力の向上を図っています。



河川を水源とした火災防御訓練の様子



大口径ホース遠距離放水訓練の様子

磯子消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

磯子消防団では、昨年度に入団された方が多数います。消防団としては良いことではありますが、一方で、定年により経験豊富の方が多数退団されていることから、消防団全体の災害対応能力を維持していくことが難しく、退団される方から新規入団の方とにかくに消防技術を伝承していくかが課題となっています。

このことから、今後、磯子消防団として団員の技術レベルの底上げを意識した訓練を企画、実施していく必要があります。

2 訓練内容

(1) 各分団と連携した遠距離放水訓練

大規模地震発生後の火災を想定した訓練を実施しています。

河川等の自然水利から500m先まで送水し、放水することを目的として実施しました。(木造密集地域火災対策含む)

また、各ポンプの送水技術の課題点等を学習することにより、実災害でも訓練どおりの活動が展開できるように意識しています。



遠距離送水訓練の様子（J X T G 構内）

(2) 地震火災対策訓練（高所見張り等）

木造住宅が密集し、延焼の危険性が高い磯子区北部の重点対策地域で火災が発生した場合に、いち早く発見、消火することを目的とする広報消火隊（消防団積載車等）が磯子消防団で運用されています。

そのため、写真等により震度5強以上の地震があった場合をイメージし、決められた高所見張り場所（本署・横浜学園高校）において高所見張りを実施し、視認した煙から火災現場を特定し広報消火隊（消防団積載車等）の誘導までの訓練を実施しています。



地震火災対策訓練（高所見張り等）

金沢消防団の取組事例①

1 訓練に関する課題

大規模震災時など、消防水利が使用不能となった場合に、遠距離送水資機材（100mmホース）の効率かつ迅速な取扱いと、大型簡易水槽を有効に活用し、「消防署と消防団がいかに連携し効率的な活動を行っていくか」という点が課題となっています。

このことから、課題を意識した継続的な訓練を企画、実施していくことが求められています。

2 訓練内容

- (1) 消防隊と連携し 100mmホースの効率的な延長訓練
- (2) 大型簡易水槽の設置要領及び取扱い要領訓練
- (3) 大型簡易水槽からの小型ポンプによる取水、多口放水訓練
- (4) 民間ミキサー車からの補水訓練

100mmホース 33本延長し、大型簡易水槽へ補水し消防署と消防団による取水、放水訓練を実施するとともに、各資機材の取扱い訓練も実施しました。



100mmホースの延長確認の様子

金沢消防団の取組事例②

1 訓練に関する課題

金沢区内の史跡（文化財含む）称名寺境内の称名寺市民の森は、境内を含め周辺を丘陵地形に囲まれ、頂上付近には八角堂があり市民の憩いの場となっています。

一方で、防火対策面からでは、一方向からの進入経路、周囲が丘陵地で囲まれていることなどの要因により、ひとたび丘陵部分で発災した場合は、非常に防御活動が困難な地域となっています。

このことから、地域を熟知した消防団が、いかに効率的な活動を展開し、初期対応を実現させていけるか検討していく必要があります。

2 訓練内容

- (1) 高低差のある丘陵部でのホース延長訓練
- (2) 自然水利（称名寺の池）からの取水訓練
- (3) 小型ポンプによる中継活動要領確認
- (4) 頂上（八角堂）付近での有効放水確認

※ 本訓練は今後実施を予定している訓練です。



港北消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

港北消防団では、年間を通じた入団募集活動により、一定の充足率を維持していますが、一方で、各団員の技能向上や、訓練場所・時間の確保など、様々な課題があり、今後、改善を図っていく必要があります。

2 訓練内容

(1) 女性消防団員を対象とした救助資機材取扱訓練

港北消防団では、市内で唯一女性だけで構成された分団があり、他の分団同様に救助資機材が配置されています。

実災害が発生すれば、男性団員同様、的確な災害対応が求められることから、技能の向上を図るため、消防隊や消防団係が指導者となり、基礎的諸能力訓練をベースに、女性でも安全・確実に救助資機材の取扱いができるよう、年2回、実技研修会を実施しています。



エンジンカッター取扱訓練の様子



可搬式ウインチ取扱訓練の様子



可搬式ポンプ取扱訓練の様子



トリアージ訓練 (START 法) の様子

(2) ポンプメーカーによる可搬式小型ポンプ講習

消防団員として基本的な取扱い資機材である可搬式小型ポンプについて、消防団員が、取扱い方法、機能及び特性を理解し身に付けるとともに、指導的立場として他の団員に指導できるようになるため、ポンプメーカー社員を講師に招いた講習会を開催しています。



講義の様子



実技研修の様子

(3) 応急手当指導員スキルアップ研修

港北消防団では、年間を通じ、地域、学校及び職場で実施される普通救命講習会において、応急手当指導員が中心となって指導を行っています。

このスキルアップ研修会では、講習の指導者として必要な知識と技能の維持・向上を図るとともに、「受講者へ講習内容を的確に伝えること」に重点を置き実施しています。



実技の様子(指導者、受講者に分かれて実施)



救急救命士による講義の様子

(4) 大口径ホースによる遠距離送水訓練

大規模災害発生時における木造密集地域等の大規模火災に対応するため、長距離送水訓練を実施しています。

遠距離送水資機材を活用し、消防隊と連携を図りながら迅速に延長できるよう訓練することで、実災害に対する対応能力の向上が期待できます。



河川から取水する様子



100 mmホース延長及び分水媒介への送水

(5) 隣接都市消防団との合同研修

港北消防団と川崎市中原消防団では、災害時の連携強化を図るとともに顔の見える関係を構築するため、毎年度合同研修会を開催しています。

また、直に隣接している第五分団と中原消防団住吉分団は、お互いの夏期訓練会等に参加するなどし、交流を深めています。



合同研修会の様子

(6) 消防署消防団地区本部運営訓練

水害や震災時における初動体制の確立と、情報受伝達能力の向上を目的として、消防団本部及び分団本部の設置及び運営訓練を実施しています。

団本部の指揮能力の向上が図られるとともに、地区本部と団本部の連携強化により消防団、消防署の顔の見える関係も構築でき、大変有意義の訓練となっています。



地区本部との情報共有の様子



消防団本部運営の様子

(7) 風水害対策等実働訓練

大雨による洪水・河川の氾濫等により避難が困難となった住民を、ゴムボートを活用して救出する想定で、消防団と消防隊が連携訓練した訓練を実施しています。



漕艇訓練の様子



ボート展張訓練の様子

(8) 署団連携訓練

港北消防団、消防署は、1署所=1分団という体制をとっており、分団ごとに、それぞれの地域特性に合わせたテーマを定め、消防隊と連携訓練を実施しています。



エンジンカッターによる切断訓練の様子



資機材取扱い訓練の様子



指揮本部との連携訓練の様子



中継連携訓練の様子

緑消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

緑消防団では、勤務地消防団員、女性消防団員の割合が増加する中で、一人でも多くの消防団員が訓練に参加できるように、平日の昼間、夜間、土曜日、日曜日など、可能な限りの時間帯を捉えて訓練を実施しています。

一方で、基本動作に忠実、かつ、基礎技術の習得を徹底した訓練内容、誰もが参加しやすい訓練環境の整備などが課題となっています。

今後、消防団全体で課題解決に向け、様々な訓練を企画、実施することで消防団員の技術向上に取り組んでいきます。

2 訓練内容

新入消防団員研修

新年度に入団する消防団員に対して、その任務を正しく認識させるとともに、消防団員として必要な基礎知識、技術及び規律の習得を目的として新入消防団員研修を実施しています。

また、女性消防団員を中心に、防災指導などの訓練も実施しています。



新入消防団員研修の様子



女性消防団員研修の様子

青葉消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

青葉消防団では、訓練中などの際、団員間や団員と団本部間の無線交信の受伝達が不十分な面があります。

実際に大震災などが発生すれば、正確な情報の収集が要となるため、災害の様々な状況を明確に無線交信出来ることは求められる技術であり、消防団全体がこのことを意識し、訓練を計画、実施していく必要があります。

2 訓練内容

(1) 画像等を活用した無線交信訓練

実災害で迅速、的確な無線交信が実施できるよう、画像等を活用した無線交信訓練を実施しました。

この訓練では、下記のような画像等を見ながら実災害を想像し、自身が現場到着した想定で団本部への無線報告及び団員間での無線交信を行いました。

また、より高い技術の習得を目指し、建物裏側や隣家の状況等を班長へ無線報告するシミュレーション訓練も実施しました。



消防団現着時この状況である。無線報告せよ。

火災想定画像

(2) 夏休み等を利用した研修

夏休み等の長期学校休校期間を利用し、消防署において、学生消防団員に対する技術向上を目的とした基礎技術習得研修を実施しています。

【研修内容】

① セーフティーファーストエイド研修

消防団員等公務災害補償等共済基金後援の研修で、業務中の消防団員等の負傷時の対処方法や大規模災害時におけるメンタルヘルス等を学ぶ研修

② 防災指導者研修

学生消防団員の防災指導力向上のため、消防署の予防課職員から消火器の取扱指導要領やスタンドパイプ式初期消火器具取扱指導要領等を学ぶ研修



セーフティーファーストエイド研修の様子

(3) 昼休みを利用した訓練

消防団係員指導のもと、昼休みの約30分を利用し、短時間訓練を毎月一回以上実施しています。

内容としては、ホース延長訓練、スタンドパイプ式初期消火器具取扱訓練、応急手当要領、負傷者搬送要領及び消火器取扱指導要領などを行っています。



ホース延長訓練の様子

都筑消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

都筑消防団では、近い将来必ず発生する大規模地震に備えて、震災に特化した対策訓練の必要性を考え、消防団の強みである地域密着性、動員力、即時対応力を活かせる震災対策総合訓練を計画、実施していく必要があります。

2 訓練内容

(1) 震災対応総合訓練

大規模震災発生時に、迅速かつ的確に対応するため、以下の想定を設定し、訓練を実施しています。

【訓練想定】

- ・地震想定：元禄型関東地震（マグニチュード8.1 市内最大震度7）
- ・被害想定：区内で震度6強の揺れにより家屋が倒壊、火災が発生する。

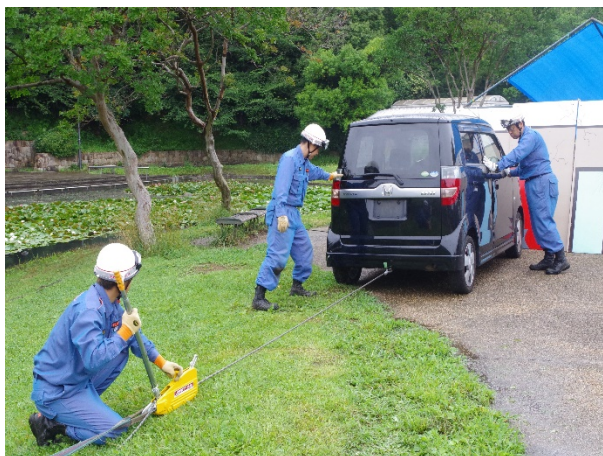
【訓練内容】

- ・分団本部の指揮運営活動
- ・情報受伝達活動
- ・車両事故救助活動
- ・座屈倒壊建物救助活動

【狭隘空間救助活動（CSR：Confined Space Rescue）】

【ショアリング（倒壊しそうな建物を補強すること）】

- ・チェーンソーを活用した破壊活動
- ・仮救護所の設置及び負傷者への応急救護活動
- ・ポンプ車及び可搬式小型消防ポンプを活用した火災防御活動



事故車両のけん引の様子（可搬式ウインチ）



車両ドア解放の様子（コンビツール）



倒壊建物進入口解放及びショアリングの様子



倒壊建物への放水の様子

(2) 飛行場外離着陸場訓練

消防団（特に女性消防団員）と消防署の合同で、飛行場外離着陸場訓練を実施しています。

【訓練内容（消防団）】

- ・ 広域避難場所敷地内・飛散物の除去及び安全管理
- ・ グラウンドへの散水及び安全管理
- ・ ヘリコプターの受援及び傷病者搬送訓練



女性消防団員による散水の様子



航空隊との訓練の様子

戸塚消防団の取組事例

1 訓練に関する課題とその対応

戸塚消防団では、訓練に関する課題とその対応について、以下のとおりとしており、取り組んでいく予定です。

- (1) 団員各自のレベルの格差があるので、特に経験の浅い団員を中心に、全ての団員がスキルアップし、消防団全体の災害対応力を向上させること。
- (2) 近年、消防団員に求められている能力は多岐に亘るが、単発で訓練等を実施するやり方では、そこで得た知識・技術は付け焼刃的ですぐに鈍ってしまう。その対応として、目標を明確化し、5年10年先を見据えた計画的かつ効果的な訓練の実施計画を構築すること。
- (3) 訓練等に参加する団員が固定化されていることから、団員が参加しやすい環境を整備していくこと。また、各分団できめ細やかな訓練が実施できるよう、訓練を指導する立場の団員がスキルアップすること。
- (4) 地域の実情をよく知る消防団員は、地域防災力の向上のキーパーソンになることから、平時における防災指導要領等を確実に習得すること。

2 戸塚消防団のコンセプト

戸塚消防団は、各分団の意見を組み込みながら、ボトムアップで年間計画を作成しています。人が変わっても訓練の継続性を確保するため、「火災対応力の向上」と「基礎的諸能力」の2つを軸とし、隔年でそれぞれの訓練を重点的に実施することとしました。

また、各種訓練の実施にあたっては、団員各個のレベルに合った訓練を実施することで、効果的に成果を上げることができるよう、対象者を明確に示しています。そうすることで、背伸びすることなく安心して訓練に参加できる環境を作っています。

加えて、訓練に参加できない団員のため、消防署がフォローアップ研修という形で、平日の夜にサポートを行う体制をとっています。

3 訓練内容

(1) 火災対応訓練 (STEP 1～STEP 3)

団員各自のレベルに合った訓練を実施し、効果的に災害対応能力の向上を図っています。今年度については、火災対応能力の強化に重点を置き、STEP 1～STEP 3の3部構成で実施しています。安全、確実にホースを延長し、放水することができるような基礎訓練から、実災害を想定した消防署との連携訓練までを実施しました。



火災対応訓練STEP 1の様子①



火災対応訓練STEP 1の様子②



火災対応訓練STEP 2の様子



火災対応訓練STEP 3の様子

(2) 女性団員研修

戸塚消防団では、96人の女性消防団員が在籍しており、各分団から女性代表者を選任し、女性団員の活動計画を検討しています。

なお、当面の間は、「訓練礼式」と「スタンドパイプ式初期消火器具」の2本柱で研修を実施していく予定です。

また、スタンドパイプ式初期消火器具については、自らが取り扱うことができるだけでなく、地域の方へ指導することができるレベルに到達することを目標としています。



スタンドパイプ式初期消火器具取扱い訓練の様子



訓練礼式の様子

(3) 訓練指導者研修

各分団できめ細やかな訓練が実施できるよう、各分団に5人配置されている訓練指導者とベテラン団員が中心となり、指導的立場の団員のスキルアップを目的とした訓練指導者研修を実施しました。内容については、「火災対応力」の向上と「基礎的諸能力訓練対策」の2回に分けて実施しました。

また、訓練指導者には、保安帽に指導者と分かるようなステッカーが貼付してあります。



訓練指導者研修の様子



訓練指導者用ステッカー

栄消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

栄消防団では、様々な団員確保に取り組んだ結果、勤務地団員の割合が増えましたが、本業の繁忙等により、入団後の消防団活動等への参加率が低く、今後は、そういった団員が継続的に訓練に参加できるよう検討を重ねていく必要があります。

2 訓練内容

(1) 大規模災害対応訓練

災害現場での火災、救助活動能力向上を図るため、大規模災害発生時を想定した訓練を実施しています。

【火災規模想定】

- ・ 自然水利から揚水し模擬家屋に放水、要救助者救助後に心肺蘇生を実施

【救助想定】

- ・ 震災により倒壊した障害物を資機材により除去、要救助者を救出し、心肺蘇生を実施

※ 新たに導入した搬送用資材(フルスケッドストレッチャー)の活用法について救助隊指導のもと検証



要救助者への呼びかけ、人命検索の様子



狭所の要救助者救出の様子



プールからの揚水活動の様子



各分団の連携による放水活動の様子

(2) 車両運行訓練

緊急走行の際の注意点や車両運転席からの死角について機関員及び隊員が認識し、運転技術や車両誘導技術の向上を図るため、走行訓練及び車両誘導訓練を実施しています。



車両誘導訓練の様子①



車両誘導訓練の様子②



車両走行訓練の様子③



車両走行訓練の様子④

(3) 水害対策訓練

台風や大雨による河川の氾濫、短時間の局地的豪雨による急激な河川の増水等への対応能力の向上のため、要救助者救出訓練及びゴムボート取扱い訓練を実施しています。



水害対策訓練の様子①



水害対策訓練の様子②



水害対策訓練の様子③



水害対策訓練の様子④



水害対策訓練の様子⑤



水害対策訓練の様子⑥

(4) 車両事故救助訓練

消防団協力事業所の協力により、訓練場所と廃車両を提供していただき、消防団が保有している資機材を用いて拡張、切断、解放等の救助訓練を実施し、消防団員の車両救助技術の向上を図っています。



車両事故救助訓練の様子①



車両事故救助訓練の様子②

(5) 署団連携遠距離中継訓練

防火水槽に部署している消防隊から1線を延長し、高低差20m先の市民の森へ可搬式ポンプを搬送、遠距離中継態勢を確立し放水する訓練を実施しています。

この訓練では、消防団員のホース延長要領及びポンプ操作等の活動要領の技術の向上を目的としています。

※ 防火水槽からの取水を可搬式ポンプに入れ替え、遠距離中継態勢について検証



遠距離中継訓練の様子①



遠距離中継訓練の様子②

泉消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

泉消防団では、昨年度に基礎的諸能力訓練をはじめとする各訓練の状況を確認したところ、訓練に参加する団員が固定化してしまっているという課題点が浮き彫りとなりました。

また、各訓練での技術の習熟を踏まえて実施すべきである、大規模災害対応訓練においても、各分団の消防力の差が顕著となっていることから、いかに団員の訓練参加率を上げるとともに、各分団の消防力を底上げしていけるか継続して検討していく必要があります。

2 訓練内容

訓練に参加しづらい団員のためのフォローアップ訓練

日頃、本業が多忙なことや、しばらく訓練に参加しておらず今更訓練に参加しにくいといった理由で訓練参加率が低い団員に対してフォローアップ訓練を実施しています。

なお、泉消防団では基本的に訓練参加者の選定を各分団で行っているところですが、この訓練に関しては、参加者の取りまとめを消防団係が直接行い、「参加しやすい環境づくり」を意識しています。

また、訓練指導者として泉消防署警防課の職員にも参加していただき、ホース延長や放水活動など基本的な項目から実施することで、「分かりやすく楽しい訓練」になるよう心がけています。



フォローアップ研修の様子①



フォローアップ研修の様子②

瀬谷消防団の取組事例

1 訓練に関する課題

瀬谷消防団では、毎年実施している訓練の中に、女性消防団員だけで実施する訓練等があります。課題については、訓練に対する姿勢が受身になっている点であり、また毎年似たような訓練に対するモチベーションの低下、参加率の減少が主な要因となっています。

その課題を解決するため、訓練内容の工夫や消防団員でないと経験できない危機感を持つことが必要と考えています。

2 訓練内容

(1) 火災対応総合訓練

ア 実火災への対応を想定した訓練

警防課長が訓練に加わり、指揮本部を設置、下命を受け行動する現場活動と同じ状況で火災対応訓練を三か年計画で実施しています。

イ 消防隊との連携を見据えた訓練

消防団一個班の活動ではなく、複数班での活動、連携強化を目的として想定を付与しています。また消防隊との連携を強化しています。



延焼建物への放水の様子①



延焼建物への放水の様子②

(2) 女性消防団員による訓練

① 初期消火箱取扱い訓練

資機材の取扱い、初期消火の手順を習熟するため、女性消防団員がスタンドパイプ、筒先、ホース等を用いて実施する初期消火箱取扱い訓練を隔年で実施しています。

② 女性消防団員技術向上訓練

毎年異なるテーマを設定し訓練を実施しています。

訓練内容については多岐に亘り、防災指導要領、チームビルディング(団結力向上)研修、手話等を行っています。



女性団員によるホース延長の様子



女性団員による防災指導訓練の様子